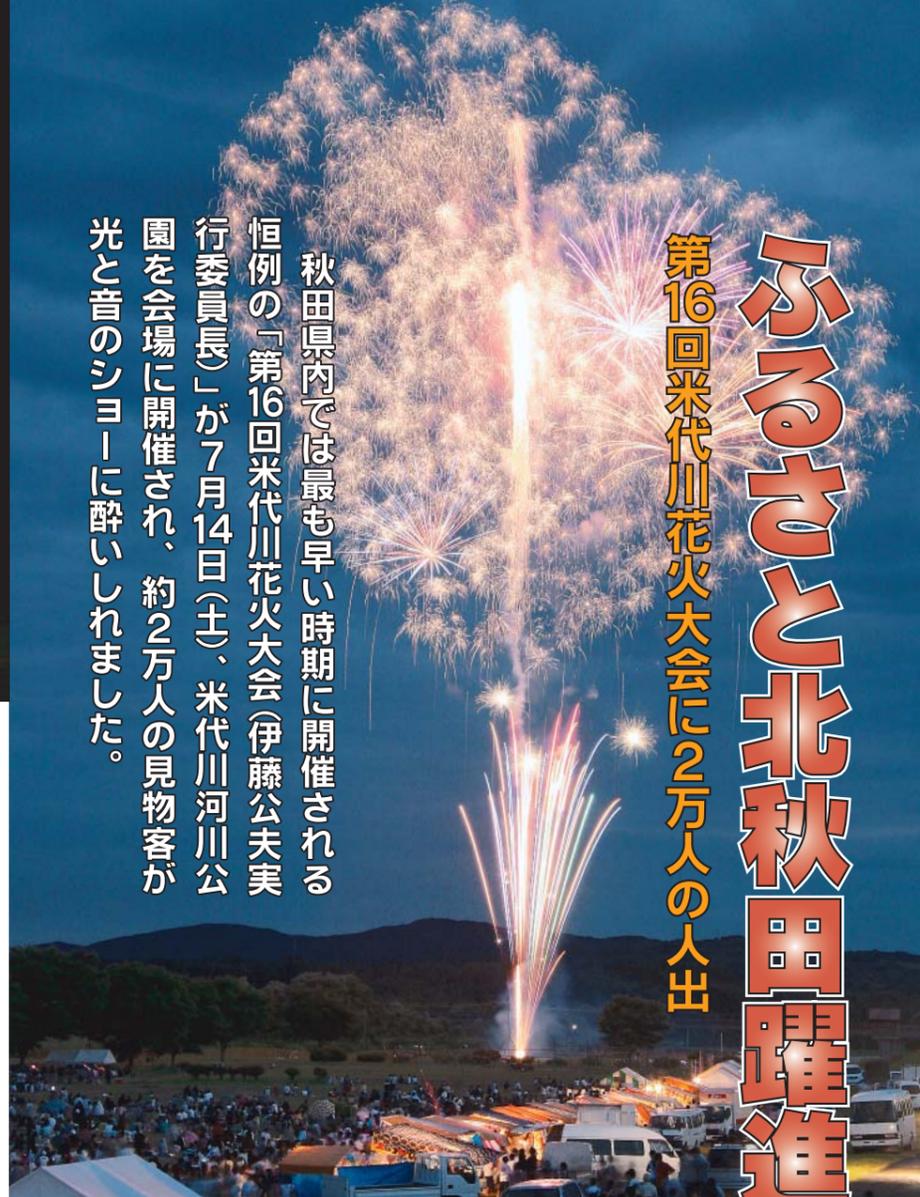


# ふるさと北秋田躍進の輝き

## 第16回米代川花火大会に2万人の人数



秋田県内では最も早い時期に開催される恒例の「第16回米代川花火大会(伊藤公夫実行委員長)」が7月14日(土)、米代川河川公園を会場に開催され、約2万人の見物客が光と音のショーに酔いしれました。

現在の花火大会は、昭和の合併以前の旧鷹巣町で開かれていた花火大会を鷹巣町観光協会(現北秋田市観光協会)が平成3年、鷹巣中央公園桜まつりのメインイベントとして36年ぶりに復活させ、その後会場を米代川河川敷に移して開催されているもの。最近では打ち上げられる花火の数も増え、県内では大曲、能代の花火大会に次ぐ規模となっています。今年は例年より2割ほど多い3千5百発が打ち上げられました。

今年(2019年)の大会は、運営上の事情からこれまで主催してきた市観光協会が6月中旬に中止を決めたため、開催が危ぶまれました。このため、これまで市民に親しまれてきた花火大会の火を消したくないと市民有志が実行委員会を結成、準備期間が約1カ月ほどしかなかったものの精力的に活動を展開、町内会や企業、各団体など多くの協賛を得て開催にこぎつけたものです。

大会では4号から10号の割物花火、華やかな大小のスターメイン(連射花火)などが次々と打ち上げられ、漆黒の夜空を華やかに彩りました。また、宝石や蝶、扇の形に開く造形花火なども見物客を楽しませました。このほか、高野尻万灯火会の全面協力での火文字の演出にも大きな拍手が沸き起こっていました。



みんなできろう内陸線

▲高野尻万灯火会による火文字の演出。「みんなできろう内陸線」の前を列車がとことこ進みました

漆黒の夜空をパステルカラーで鮮やかに彩ります

## 北秋田の夏を彩る光の造形



花や扇の形に開くもの、不規則に変化するユニークな花火の数々。また、間近にとどろく轟音も迫力満点。▲▼

